

# ちえのわ不動産だより

第52号 2019年11月  
発行(株)ちえのわ不動産  
岡山市中区中納言町3番22号 巻  
TEL:086-206-2836 FAX:086-206-2837

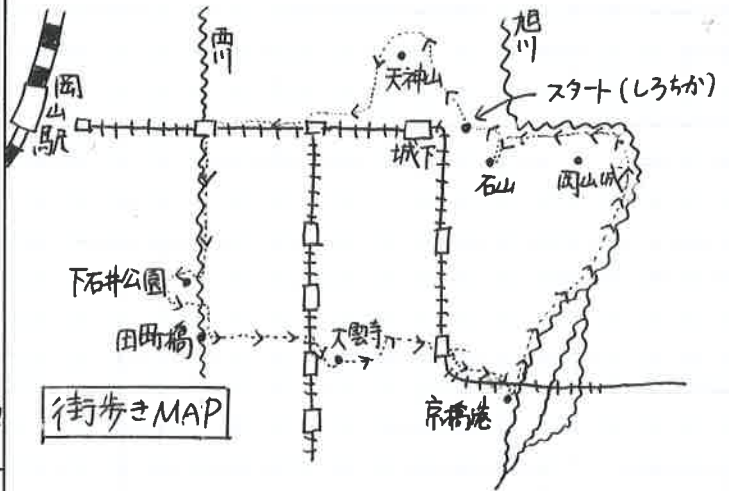
## ちえのわ不動産とは

ちえのわ不動産はライフスタイル提案型の不動産&建築設計事務所です。「私たちの考える暮らし」に少しでも共感していただける方、ぜひうちに来て物件を探したり、新築ベリバージョンの設計相談をしませんか?

### 「私たちの考える暮らし」

- ・できるだけ街中の便利な場所に住む
- ・小さな家でミニマルに暮らす
- ・自分の住まいは自分で考えて作る
- ・食べ物に気をつかう
- ・家庭菜園を楽しむ
- ・石けんを使う
- ・木のおもちゃで子育て
- ・循環型の生活を目指す
- ・安全な場所、危険な場所を知る

もこんな感じの街歩きイベントができればいいなと考えています。



## 大学生と街歩きしました

9月下旬、岡山理科大学の1年生と一緒に大学の授業の一環で岡山市内の街歩きを行いました。岡山理科大学の学生さんは他県出身者が多いそうで「岡山市内でフラタリのような街歩きを」というのが理大で教鞭をとられている大学の先輩からのご要望。今回で3回目となりました。毎回どうやって案内しようかと悩むこの企画。今回も図書館で資料を借りて、夜中までレジュメを作成して当日を迎えました。

朝に城下交差点の地下広場に集合して出席を取り、30人くらいの一団でぞろぞろ歩いていきます。まずは戦前まで岡山県庁があった天神山へ。今も県立美術館や天神山文化プラザなどの県の施設があります。街歩きでは、江戸時代に濠があった天神山の周りをぐるりと歩きました。その後西川緑道公園を南下。この辺りが江戸時代の城下町の田端です。下石井公園と出る小学校の跡地が面している。あくら通りの向かい辺りに、映画監督の高畑勲さんが戦争中に住んだ家がありました。ここで高畑さんは1945年6月29日未明に岡山空襲を体験されています。少年だった高畑さんは、ここから京橋まで子供だけで逃げたという記録があるので、それをたどることに。途中、大聖寺の日限地蔵さんに寄り道をし、私の両親がなかなか子供が授けなかったとき、大阪からお参りしてすぐ私ができた話をしました。それから京橋へ。ここは港だったという説明しようとしたら、ちょうど京橋クルーズの日だったので大島に向けて船が出港するところでした。いつもはただの川原なのに、今日は港に見えて不思議な感覚。その後、岡山城が建設される前に岡山城があった石山へ寄って解散となりました。

なんだかんた2時間歩いてしゃべりまくりました。いっか弊社で

## 台風の被害について

今年は、九州、関東、東北で大規模な浸水を伴う台風の被害がありました。ニュースからはダム整備や堤防整備が不十分、もともと国土強靱化を!という声が聞こえてきますが、本当にそうなのでしょうか?

今回浸水被害の状況を映像で見ると、比較的新しい家や老人保健福祉施設が水没しているのが印象的でした。ということは、古い建物はあまり浸水していないのです。戦後ダムや堤防が整備されて、元々は「危ないから」という理由で家が建てられていなかった土地にまで「安全」と判断されてしまい作られた建物に被害が集中しています。

岡山市は、去年の七夕豪雨でも笹ヶ瀬川や石川の流域で被害が出ましたが、中心部を含めた平地部分は江戸時代からずっと洪水に悩まされてきた土地です。これから先も旭川や百間川の堤防が切れると、町全体が水没する可能性があります。

岡山市内だと、どこに住むのが安全なのか、不動産屋としては頭を悩ませるばかりです。私が言えるのは、ここだと浸水の危険がある。ここだと浸水の危険性が少しまし、というレベル。それでも日頃から監視しているよりは、危機感を持って害に対する備えや行動ができるので意識が変わります。岡山平野は洪水によってつくられた平地と干拓によってつくられた干地でできているため、洪水や地震にとても弱い土地です。岡山は災害が少なくて安全!という間違った流説に流されず、常に災害に対する意識を高めておきましょう。

**ちえのわ不動産**  
cienowa real estate

岡山市中区中納言町3番22号 巻

http://www.cienow.com

info@cienowa.com

TEL: 086-206-2836

FAX: 086-206-2837

定休日: 水曜日

来店時はご予約ください

